

# 長編8ミリ映画：プライベート・ナラティブ



8MM  
FEATURE  
FILMS:  
PRIVATE  
NARRATIVE

2017年 10月14日(土)

Aプログラム 13時〜《極星》山崎幹夫

Bプログラム 15時〜《猫夜》山崎幹夫

2017年 10月15日(土)

Cプログラム 13時〜《毛髪歌劇》帯谷有理

Bプログラム 15時〜《虚港》山崎幹夫

※各作品上映後に監督による作品解説があります。

※《虚港》には一部の場面がございますので、ご注意ください。

国立国際美術館 地下1階講堂

入場無料／全席自由／先着130名

※各日10時から当日の各プログラムの整理券(1名様につき1枚)を配布

※各プログラム入れ替え制

主催 国立国際美術館

協賛 ダイキン工業現代美術振興財団

協力 イメージフォーラム

# 長編8ミリ映画: プライベート・ナラティヴ

第14回中之島映像劇場は、「長編8ミリ映画:プライベート・ナラティヴ」と題し、2作家、4作の長編8ミリ作品を紹介いたします。

1965年「わたしにも写せませう」のコピーで宣伝され、販売開始されたシングル8(富士フィルム)は、ホームユースの動画メディアとして、それまでの小型フィルムとは一線を画する手軽さを備えていました。それは同年にコダック社が発売開始した「スーパー8」も同様で、一般に広く浸透していきました。やがてそれらを用いて自分たちの映画を撮ろうという学生を中心とした動きが70年代に盛り上がり始めます。それはいわゆる小型映画や日大映研、「フィルム・アンデパンダン」などと地続きでありながらも、それらとは少し異なる性格を持っていました。すそ野の広さが、このような状況をつくり出した一因ですが、一般の映画の模倣、批判、逸脱にアマチュア指向や大いなる創意が加わり、それは多様で独特の作品群を創出していきます。「自主映画」は、時には崩壊しつつある撮影所に代わる映画監督の登竜門の役割を担い、またそれ自身が独自のジャンルとして展開していきました。

今回上映する作品が制作された、1980年代末から1990年代は、家庭用動画メディアが完全にビデオに取って代わられていた時代です。8ミリによる自主映画はジャンルとして根強く残っていましたが、かつての隆盛はなくなりつつある時期です。この時期敢えて8ミリで長編映画を撮ることは特別な意志が必要です。今回とりあげる作品は、本質的には実験映画・個人映画の文脈で語られるべき映画ですが、自主映画の文脈を自覚的に参照することにより、複雑な肌理を示しています。そこには、映画という形式に対する鋭い批評性と深い愛情が込められています。この豊かな表現世界をご覧いただき、楽しんでいただけたらと思います。



**国立国際美術館**  
THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA

お問い合わせ: 06-6447-4680(代)  
〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-55  
4-2-55, Nakanoshima, Kita-ku, Osaka 530-0005  
<http://www.nmao.go.jp/>

京阪電車中之島線「渡辺橋駅」(2番出口)から南西へ徒歩約5分  
地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」(3番出口)から西へ徒歩約10分  
JR大阪環状線「福島駅」、東西線「新福島駅」(2番出口)から南へ徒歩約10分  
阪神電車「福島駅」(3番出口)から南へ徒歩約10分

当館には専用駐車場はありません。ご来館は電車・バス等をご利用ください。心身に障がいのある方で、車で来館される場合は、当館北側の有料駐車場をご利用くださいますようお願いいたします。

国立国際美術館では、本上映会時に次の展覧会を開催中です。  
2017年7月18日(火)-10月15日(日)  
「ボイマンス美術館所蔵 ブリュウゲル『パベルの塔』展  
16世紀ネーデルラントの至宝ーボスを超えてー」  
「コレクションー風景表現の現在」

各作品上映後に監督による作品解説あり

2017.10.14 SAT

## pro.A 13:00-《極星》山崎幹夫監督作品

Guiding Star, 1987年, 8mm, 75分  
出演=山崎幹夫、神岡隼、寺本恵子、川口善之  
音楽=勝井祐二

友人を主役に8ミリ映画を作ろうとした「私」は撮影を途中で放棄し、自分の身の回りの光景を撮り始める。日々の日没、映写技師として出会う映画。やがて「私」は旅に出る。そして北陸の町で、かつて映画に出てくれた女性と再会する。彼女は幼い子どもを連れて現れる。



## pro.B 15:00-《猫夜》山崎幹夫監督作品

The Cat Night, 1992年, 8mm, 80分  
出演=山崎幹夫、神岡隼、寺本恵子、寺本和正、杉浦茂  
音楽=勝井祐二

「極星」を完成してあちこちで上映して回るヤマザキは、被写体である神岡とカーコに「日常を撮るように」と8ミリカメラを渡す。3人によって並行して進む日記的な映像と、カメラを持ったままどこかに消えてしまったもう一人の男のエピソードによって構成された作品。



2017.10.15 SUN

## pro.C 13:00-《毛髪歌劇》帯谷有理監督作品

The Hair Opera, 1992年, 8mm, 60分  
監督、脚本、撮影、録音、編集=帯谷有理  
撮影補、協力=芹沢洋一郎 出演=帯谷有理、神先智子

陰毛をコレクションした「陰毛日記」なる作品を発表する女性美術家。自らも毛髪に特別な関心を寄せる「作者」は、彼女との交際を試み、8ミリによるフィルム・レターの交換を企図するがー。フィルムに髭や毛髪を貼るなど、実験映画、コンセプトアート固有の言語を荒々しく振りまき進むその結末は?(IFF1993カタログより)



## pro.D 15:00-《虚港》山崎幹夫監督作品

A Port in Vain, 1996年, 8mm, 80分  
出演=山崎幹夫、伊東香穂里、横井正蔵  
山形国際ドキュメンタリー映画祭アジア部門特別賞(1997年)

自堕落自暴自棄な生活を送る主人公は、ある日、テレクラで出会った女から、かつて働いていた学童クラブでのあだ名で呼ばれる。しかし男は彼女が誰であるか思い出せない。女の謎を追求するうちに、物語は唐突にメタフィクショナルな展開へとなだれ込んでいく。

※性的表現がありますのでご注意ください



## 山崎幹夫

1959年東京都出身、映画作家。中学生の頃から8ミリカメラに触れ、大学入学後本格的に自主映画作品を作り始める。100本近くある作品の多くは8ミリフィルムで制作されているが、1994年にはパルコ配給の35ミリ長編劇映画《ブ》(佐藤浩市主演)も監督している。フジカシングル8の生産停止にともない、2007年には一時映画制作を中断していたが、デジタルにて再開。作風はパンキッシュから内省的、私的なものから虚実ないまぜのフィクションまで、その振り幅は大きい。批評性と観客目線を見失わない姿勢は一貫している。最新作は《ディープスイーツ・シニア》(2017)



写真:首藤幹夫

## 帯谷有理

映像作家、音楽家。1963年生れ、兵庫県出身。1980年代半ばより室内楽の作曲やサウンド・アート作品の制作などを経て、1993年に制作した自主映画『毛髪歌劇』がバンクーバー国際映画祭に招待され国際デビュー。以降、国内外の数多くの映画祭や特集上映が作品を招待されている。主な映画:《フランス映画》(1994)、《厭世フフ》(1998)、《路地の子》シリーズ(1995-)、《サイケデリック・オルガン・パンダ》(2003)、《野巫女》(2008)など。

